

OIS

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14  
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553  
URL http://www.jp-interior.or.jp/  
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

千田・筒井・野口・下垣・奥田  
柴田・田原・森・山田

理事さん  
大いに  
語る。

大阪府インテリア  
設計士協会理事

座談会

17年度から18年度へ

# 葉知利書

は し り が き



事遊展  
2006. 3. 17~19

大阪なんばOCAT 4階にある大阪市立難波市民学習センターのアートギャラリーでOIS恒例の『事遊展』が開かれ、多彩な作品が展示された。その初日の3月17日、10人の理事さんに集まっていただき平成17年度を振り返り18年度への期待などを自由に話し合ってもらった。顔ぶれは足田会長、宮後・福田・千田副会長、部会を代表する今西・高木・南野・森田任理事、青年部から森理事と事務局長の奥田氏。司会役は常任理事で葉知利書編集長の柴田氏。

司会：足田会長、「インテリア設計士テキスト」の<学科編>ができてあがりましたね。

足田：すでに発行した実技編と今回完成した学科編2冊が苦勞の末に完成したことはSSSとしても大きな喜びです。学科編はOISが受験準備講座のために作ってきたテキストが基礎になっています。この基礎があってこそこの発行といえます。見てもらえば分かりますが、内容は充実していて使いやすいテキストですから、学校で教科書になると思います。なるべく早く手分けして学校を回って、先生方にアピールし、できるだけ大勢の学生にインテリア設計士の試験を受けてもらいたいと考えています。みなさん協力をお願いします。

奥田：7月の検定試験に向けて学校の先生方に集まっていただく機会を設けるなどして啓蒙活動をおおいにしてもらいたいですね。価格は学科編2,500円、実技編1,500円。書店販売はせず、学校を通じて販売する方針ですが、会員価格は各々2,000円、1,200円で販売しますので、必要な方は事務局へ申し込んでください。

千田：OISは教科書づくりに協力するなど地道な努力が実を結んでいます。今の社会の動向を見ると、変化が激しく、次々新しいものを追い掛ける風潮ですが、うちの協会は息の長い活動がもっと必要ではないでしょうか。

司会：若い会員はこの協会に何を期待しているのでしょうか。

奥田：例えば学生は学校の勤めで資格試験を受け、合格して、自動的に入会するわけですから何も考えていないと思いますよ。合格して初めてOISの存在に気づくことになりまますから、この時点でその気にさせる工夫・仕掛けが必要ではないでしょうか。

福田：メディアが氾濫して何もかもデジタル化する世の中ですが、一方で、TVなどで職人さんが注目されていて、一部の若い人にあこがれがあるのも事実です。生活していく上で手に技術を持ちたい人も出てきているようですね。

足田：例えば陶器や木工、クラフトの世界にも最近若い人が進出しています。今回の『事遊展』のように、何か仕掛けを作ってあげると家具に興味を持っていたり、何か作りたい人は作ったものを持ってきたりして参加しやすいのではないのでしょうか。

南野：そうですね。『事遊展』を担当している私としても若い人にどしどし参加してもらいたいと思っているのですが、一体何に興味があるのか、若い人だけに限りませんが、アンテナを広げてキャッチしないとイケませんね。その上で内容ややり方を工夫することが大事じゃないでしょうか。そして続ける必要があると思います。



上から、試験問題集  
テキスト<学科編>  
テキスト<実技編>

(2面につづく)

## 座談会

(1面からつづき)



足田会長

司会：「和風講座」は活発にやっておられましたが、たいへんでしたか？

高木：今年度は「和風講座」を3回実施しました。下見に行ってお話を伺ったり準備がたいへんで結構疲れました。たまに遊び半分で来る学生がいて困りましたが、なかには卒論で和風の庭について研究しているという質問する学生などが興味深く熱心に来てくれたなど嬉しいこともありました。これからは意義のある講座にしたいと思っています。

宮後：今の若者はようわからん・・・と思うことも多いですが、最近ちょっと認識が変わりました。というのは、うちの会社にインターンシップの学生を3人受け入れています。彼らは非常に熱心で向学心に燃えています。「笛吹けど踊らず」も多いですが、何人かはよくやるという嬉しい経験をしています。

司会：青年部の森さん、いろいろ大変だったでしょうが、いかがでしたか？

森：青年部を担当させていただき2年目ですが、現状はなかなか厳しいことや、ある意味前進すべきことなどいろいろあるように思います。『何事も継続できること』が大切かと思っています。青年部の間でもさまざまな意見が出ています。例えば若い人だけのコンペなど、企画・立案・実行・・・と責任を持ってやり遂げられる内容があればよいのではないのでしょうか。

千田：やってみたらよいと思います。一昨年のクリスマスパーティーは青年部に全てお任せして楽しかったし、得意の分野で楽しくやれることを事務局の協力も頼んで実施すればうまくいくと思いますよ。根回しをした上で、ひとつコンペをやってみたらどうですか。

森：今の若い人はわざわざ集まって話し合うのは難しい状況のようです。だから集まって会議を・・・というより、メールなどが一番のコミュニケーションの手段になっているのが現状です。そこでOISもホームページを活用し、さまざまな情報をリアルタイムで更新を継続し、そこでの掲示板への書き込みや質問をシェアし、それを通じて仲間意識、参加意識が持てるようになるのです。今後はこの体制、管理に力を入れ、応えてあげる必要を感じています。

森田：我々のようにこうして集まってわいわいやるイベント派と、インターネットでつながる若い人の考え方は根本的に違うようですから、この二つは分けて考えた方がよいと思います。青年部にこの点をまとめて提案として理事会に出してもらえれば、我々も協力できることがあると思います。

千田：慣れたらできるかもしれませんが、パソコンに送ってもらっても僕らはどう対応したらよいのか分からない場合が多いのです。だから、もし全国の青年部と広範囲につながるといふのならネットでやるメリットはあるでしょう。おもしろいと思います。

司会：次に進めたいと思います。19年度はSSS創立50周年の全国総会を大阪で開催予定です。準備委員長の高木さんから報告をお願いします。

高木：会場のホテルはほぼ決まりました。大阪城が眼下に眺められる宴会場を仮予約しています。記念品も目処が立ちました。100人位の参加者を見込んでいますが、総会後の見学コースをどこにするか、見所の少ない大阪、少し悩んでいます。OISとしても盛り上げたいので、みなさんの協力をお願いします。

足田：ちょっと元気がなくなったOISを燃え上がらせるいいチャンスですから、若い人にも準備段階から参加してもらって仲間集め、イベントの中身、プレパーティなど計画できるといいですね。

高木：青年部からぜひ準備委員を出して欲しいですね。

司会：若い人の話題はたくさん出ましたが、今度OB会が発足しましたね。

奥田：理事会からの帰り道、ちょっと赤ちょうちんに立ち寄ったときに筒井監事から提案された話で、OISのOBの人達にも協会のイベントに、いままで以上に参加してもらおう方法として思いついたことです。新年会の席上で会長に椿元副会長、副会長に高木常任理事を選び、名称を「かぶだちの会」としました。年度はじめに65歳になっている人が自動的に入ることになります。会費は正会員1万円、会員5千円にさせていただきました。これで親睦、交流、OIS事業が青年部・中堅・かぶだちの会とつながり、盛り上がることを望んでいます。

福田：私もOBになったら声を掛けてもらおうと嬉しいと思います。若い人との交流できるし楽しみですね。

司会：「インテリア講座」は今後どうなっていくのでしょうか。

今西：今年度は受講者が集まらなくて開講できませんでした。今までと同じではいけないということだと思います。新しい「インテリア講座」のあり方に対し、これから知恵を絞らないといけません。ほかの講座の事になりますが、先日、試しにやりましたリートフェルトの



福田副会長



千田副会長



森田常任理事



高木常任理事



奥田事務局長



椿・かぶだちの会会長

理事さん大いに語る



宮後副会長

レッドアンドブルーチェアを作る「椅子の教室」は準備が大変でしたが、参加者していただいた方々には喜んでいただいたように思います。こういうことをふまえて新しい講座が展開できたらと考えています。

司会：では最後に疋田会長にまとめていただきましょうか。

疋田：みなさん本当にがんばりましょう！そしてみんなの力でメラメラ熱く燃え上がる会にしていきましょう。



今西常任理事

座談会を終えて

今回お集まりいただいたのは、OISの事業を進めるリーダー役として企画運営に深くかかわっている人たちです。残念ながら最近、各行事への参加人数が減少しています。我々の力で盛り上げる努力をすれば、もっと参加者は増えるし、楽しくなるはずだという点で意見は一致していますが、どのような仕掛けを作ればよいか的を得た答えが見つかりません。TVも双方向時代。ここは会員一人ひとりの声を聞く必要があると思います。



南野常任理事

★今月号の「葉知利書」にアンケートを同封しました。皆さん、ご意見、ご要望をどしどし送ってください。

私たちは皆さんの声を待っています！  
よりよい明日のOISのために・・・！

ちょっとNHKみたいですが。



「椅子の教室」



森理事(青年部長)



柴田理事(司会)



大阪府インテリア  
設計士協会理事

座談会

# 青年部コーナー

## COOLでHOTなJAPANESE in CANADA



青年部  
伊藤優美子

### 青年部 From.Canada / カナダ標準の住宅事情レポート

カナダ・カルガリーからのレポート、第4弾です。今回は最終回ということで、私がカナダで見つけた日本を紹介いたします。

まず、皆さんご存じとは思いますが、漢字が人気です。「漢字で名前を書いて！」と頼まれることが時々あります。そして漢字は、TattooやBody Paintによく使われています。あり得ない漢字、意味不明、あまり良くない意味(ある女の子の腕には『牛』と入っていました)など色々ですが、みんな気に入っているようです。他には、服に文章(意味不明)が書いてあったり、バッグに電車の中吊り広告(私の見たのは、美白特集のもので、文字のみ)のようなものが印刷されていたり。漢字が一文字書いてある額(でも、あまりうまくない文字)なども、よく見かけます。とにかく日本語なら何でもいいみたいです。日本でも、意味の分からない英文の印刷されたTシャツなどがあるように、違う文化に魅了されているのでしょうね。

次に漫画・映画・TVドラマです。本屋さんでは、英訳された漫画(海賊版ではない)が日本円にして千円(2倍以上?)ぐらいで売られています。中国系のお店に行くと、海賊版の映画やドラマ(中国語や英語の字幕付き)のDVDやVCRを売っていたり(しかも安い)レンタルされていたりしています。

と、一般的にはこんな感じですが、インテリアデザインフィールドにも、色々な日本があります。

まず、こちらで人気のあるスタイル(例えば、ピクトリアン、フレンチカントリーなどのようなデザイン様式)に仲間入りしかけているのでは?と思うのが、《Zen-Style(禅宗様)》と《Wabi-Sabi(侘寂)》です。大きな本屋さんでは、小さなスペースですが、それぞれ独立したコーナーがあります。JapaneseやAsianといったカテゴリーさえもないのに、禅と侘寂はあるのですね(ちなみにFeng-Shui(風水)もあり、なかなかの人気です)。

次に製品についてですが、和風住宅を造れそうな品揃えです。もちろん、厳密にいうと違いますが、こちらの人好みの日本風デザインです。日本風デザインの壁紙・ランプ(写真1)・和紙でできたスクリーン(写真2)などです。これらはホームセンターなどで気軽に手に入ります。また、日本風デザインの家具、家具用布地(写真3・ソファやカーテン用)、キッチンキャビネット(写真4・少し勘違いされた日本ですが・・・)などもあります。これらは注文品になりますが、こちらではかなりユニークなコンセプトです。

他には製品についている名前にも日本の物があります。あるペイントの会社は《わさび・天ぷら・渋い・椎茸(これって色名じゃないですけど・・・)》という名前を持っています(写真5)。

こういった北米産の和風デザインについて、クラスメイトたちは《カッコいい》そして、単体で見せると、「コンテンポラリー」というのです。私が見たら、ただの和風なのですが、彼女たちにとっては、シンプルで男性的なラインと抑えた色調の調和が、新しく、カッコいいとのことでした。確かに日本の文化は男性(武士)を中心に発展してきたもので、見事に的を射た感想で驚きました。

普段は自分の身近すぎて気づかないことを、違う視点から感想を聞くと「そういわれてみればそうだなあ・・・」と、考えさせられることがあります。異文化体験とはよく聞く言葉ですが、異文化の中で自分の文化を見直してみるのも新たな発見があるようです。



## COOL & HOT JAPANESE IN CANADA



最終回はいかがでしたか? これで、私のレポートも終わりですが、楽しんでいただけましたでしょうか?

去年の春に編集部の方からこのレポートをご依頼いただいて、毎回何を書けばいいのかと頭を悩ませながら、それでも楽しませていただきました。普段から漠然と思っていることを、文章にしてみることで整理することができ、良い体験をさせていただきました。編集部の方や、読んでいただいた方に心からお礼を申し上げます。「どうもありがとうございました!」

それでは! カナダ・カルガリーよりの最終レポートでした。